

■公共図書館での実践事例

マルチメディアDAISY図書体験会を通じて

宮崎県えびの市民図書館
袴田 陽子

2015年5月に開催された伊藤忠記念財団主催「読書バリアフリー研究会」に参加させていただき、そこではじめてマルチメディアDAISY図書と出会い、利用拡大の試みとして、早速、館内展示・体験会を計画しました。

まず、寄贈いただいたマルチメディアDAISY図書のCDのコピーを行い、貸出用と保存用の作成にとりかかりましたが、コピーが既存どおりになかなかできず苦戦しました。他スタッフや、SEの方にお手伝いいただきながら、ようやくコピー作成ができ、貸出に向けての書誌データ入力や、文書作成を行っていきました。

文書作成の際には、障害者サービスを始められている宮崎県立図書館の担当の方にもアドバイスをいただきながら準備を行い、体験会の際には県立図書館の障害者サービス案内も一緒に置かせていただきました。

また、広報ちらしを作成し、館内や、市内の各幼稚園、保育園、小・中学校、高校への配布や各福祉施設への案内を

行いました。社会福祉協議会へ説明に行き、視覚障害者の方々の会合で体験会の説明をさせていただく時間を設けてもらったり、市内の手話サークルの方へお願いして、聴覚障害者の方へ体験会の資料案内や館内案内をしていただく時間を設けてもらったりしました。情報が伝わり、1名の聴覚障害の方が体験会当日に参加してくださいました。

案内の際、手話サークルの方からいろいろなアドバイスをいただき、その後の館内環境整備に役立てています。



広報チラシ

体験会所感

体験会は、2015年9月5日から9月30日の期間中、館内へ入ってすぐ目に入る玄関前に特集展示を設置して行いました。

マルチメディアDAISY図書が自由に体験できるように、専用のパソコンを設置し、その横に拡大読書器やさまざまなバリアフリー資料、わいわい文庫に収められている絵本なども一緒に展示しました。



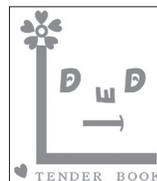
展示の様子



「わいわい文庫」体験風景

また、その展示資料をスタッフで「テンドーブック TENDAR BOOK (思いやりの本)」と名づけ、ロゴも作成しました。

ロゴマーク



実際、体験した方の多くは、一般の方や小学生が主で、読むことが困難な子どもたちの体験はありませんでした。また、貸出のほうも今のところ録音図書の音読を行っているボランティアの方々への貸出のみになっています。

周知としては、まだまだといったところですが、今回の体験会を通じ、さまざまな関係機関の方とのつながりができました。そして、マルチメディアDAISY図書をいろいろな方々に知っていただくきっかけの一つになったのではないかと思います。

体験会を終了した現在は、常設コーナーとして設置し、バリアフリー資料の収集、「TENDAR BOOK」コーナーの案内冊子の作成に努めているところです。これからも、さらに各関係機関と連携を図りながら、利用拡大にPRにと取り組んでいきたいと思っています。



現在の常設コーナー